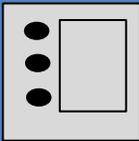
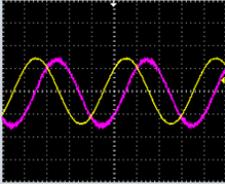
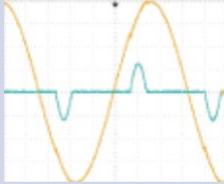
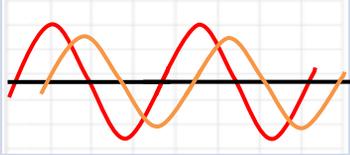


各種交流電子負荷による 力率可変機能の挙動について

発電機や自立運転出力を持ったPCSなど、緊急時におけるAC電力供給機器のニーズは高く、不特定多数の負荷が供給機器に接続され使われる環境から、交流出力の評価では、クレストファクタ(CF)の再現や無効電力(力率変動)の発生が必要です。特に無効電力は回転機器(モーター内蔵)への供給時に発生する為、それらの再現可能な負荷装置の選定が必要となります。各種負荷装置における無効電力(力率変動)の動作に関して、動作の違いについて解説します。

テストイメージ

各種交流電子負荷による力率可変の違い

| 比較モデル | NT-AA-10kE-L  | 3270シリーズ  | RLC負荷  |
|--------------|---|---|---|
| 力率変動時の動き | 力率(位相)を変更し、 正弦波での位相可変  無効電力の再現可! | CFを変更し、正負範囲 のみ位相変更  無効電力の再現不可 | LCの容量を可変させ、 正弦波での位相可変  無効電力の再現可! |
| 設定範囲 | 力率(±1.00)と位相(±90deg)の 2種類の設定が可能 | 力率(±1.00)の設定のみ ※CFの値は自動設定 | LCの容量可変をしながら 観測波形から位相差を確認 |
| 印加電圧 の依存性 | 無し 任意の設定で要求位相の再現可 | 有り 印加電圧に応じてCF値が可変 | 有り 印加電圧に応じて調整が必要 |
| 回生機能 | 有り(カーボンニュートラル対応) | 無し | 無し |
| CF可変 | $\sqrt{2} \sim 4.0$ | $\sqrt{2} \sim 5.0$ | 無し |

特長

Ene-phandシリーズ

- ・進み遅れの位相設定により、容量性負荷・誘導性負荷・抵抗負荷の再現可能
- ・直流・交流どちらも併用な交直両用モデル。回生機能を有し省エネ評価に貢献
- ・50kWモデルまで標準品ラインナップ。最大150kWの三相交流負荷の構築が可能